

見つけてみようわたしたちの食料生産

目 標

- ・農業体験を通して、食料生産に従事している人の工夫や努力について理解を深める。
- ・社会科と食育の横断的な学習を通して、環境や資源に配慮した食生活を実践しようとする態度を養う。

育てたい力

- 普段、口にしている食べ物がどのように育っていくか、どのような育て方をしているかを学ぶことを通し、食について自分から関わろうとする力。
- 栽培から調理まで自分たちの力であることを通し、自分の食生活を見直し、よりよい食生活について考える力。

主な学習活動 (社会科：3時間、理科：2時間、家庭科：2時間、総合的な学習の時間：3時間)

田植え体験

(5月)

ヘチマ・キュウリ等の観察 (5～9月)

収穫体験

(7～10月)

調理実習

(11月)

- ・社会科の学習と関連させ、バケツ稲に取り組み、種もみから発芽させ栽培し、観察を続けながら収穫した。

- ・学年の教材園でヘチマ、キュウリ、枝豆、インゲン、トマトを栽培する。花から実が変わっていく過程と様子を観察した。

- ・教材園で育てた野菜を収穫した。

- ・収穫した野菜を使って、ピザづくりに挑戦した。様々な野菜を収穫するとともに、調理、試食を通じて食についての学びを深めた。

- ・家庭科の学習でご飯とみそ汁の調理実習を行い、栽培した米を一部利用した。



取組を終えて

子どもの声 (感想)

子どもからは、「美味しい野菜を育てるには、様々な苦労があることが分かった。」
「苦手だった野菜も、自分で育てた野菜は美味しかった。」
「オクラが上を向いて実をつけていることを初めて知った。」
「自分たちで調理したピザは、とてもおいしかった。」
「家でも自分で野菜を育ててみたい。」などの感想が寄せられた。

取組の成果

自分で収穫することで、苦手だった野菜でも食べてみようという意識が生まれていた。さとらんどでの調理はピザ作りであったが、子どもにとって食べやすい料理であった。自分たちの力で育て、収穫することで、身近に感じることができ、食についての関心を高めることができる価値のある学習であった。

体験先、関係機関

サッポロさとらんど (札幌市)